都市再生整備計画 事後評価シート 桃山地区

令和4年3月

山口県宇部市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	Щ□		市町村	村名		宇部市		t	也区名			桃山地区		面積	45ha
交付期間	平成29年度~	令和3年度	事後評価第	実施時期		令和3年度		交付対	付象事業費		437.4百万円	国費率	0.42		
										事業名					
	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	道路(市道7路	S 線)											
	天心した事未	提案事業	地域創造支援	事業(生活	道路整備、住居	表示)、事業	事業活用調査(事業評価)								
					事業	名			削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から	基幹事業	道路(市道1路	各線)					地元調整の結果	と、生活道路とし	て整備することと	したため	影響なし		
1)事業の実施状況	削除した 事業	提案事業	事業活用調査	(事業評価)				アンケート調査を評価・分析が可		哉員で調査を実施 か	することにより、	影響なし		
	新たに追加し	基幹事業													
	た事業	提案事業													
	交付期間 の変更	当 初変 更	平成2	9年度~令 -	和3年度		間の変更による、数値目標への					-	_		
		指標			従前個		目標(数	値	目標	1年以内の	効果発現要		フォローアップ
		1日 1示		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見		予定時期
	指標1	地区内の人口	地区内の人口減少を抑制 %		-0.7	H28	0	R3		3.5	0	あり なし	計画区域内の市道による れたことにより、交通の利 利用地の宅地化が促され 住人口の増加に寄与して	便性や空家や未 たことにより、居	
2) 都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標2	安心で快適な生活環境に 関する満足度			38	H29	60	R3		68	0	ありなし	緊急車輌が進入可能とな整備したことや側溝等の整により、安心に暮らせる生満足度が向上した。	修備を行ったこと	
	指標3											あり なし			
	指標4											ありなし			
	指標5											あり なし			
		指 標	:	単位	従前値		目標化		数	値	目標	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見		フォローアップ 予定時期
3)その他の数値指標 (当初設定した数値	その他の数値指標1			甲位		基準年度		日標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成兄込み	(総合所列	2)	<u> </u>
目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標2														
	その他の 数値指標3														
4)定性的な効果 発現状況	市道が整備される・降雨時に冠水して							t							
					実施内容			***	ケ/曲=1 (南) - = 1 = 1 = 1	実施状況			今後の	対応方針等	
	モニタリ	ング						都市再生	を備計画に記載し を備計画に記載に を備計画に記載し	なかったが、実	施した なかった				
5)実施過程の評価	住民参 プロセ							都市再生素 都市再生素	E整備計画に記載し、実施できた E整備計画に記載はなかったが、実施した E整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なま体制の		美化活動ボラ ステムの構築		はによるまちの美	化の展開が	出来るようなシ	都市再生素 都市再生素	整備計画に記載し 整備計画に記載に	、実施できた はなかったが、実	施した	会長へ	続き、美化ピカロード宇部や生活道路維持管理助成制度等を自治 へ説明し、制度を活用してもらうことにより、持続的な維持管理につ		
					,				を備計画に記載に を備計画に記載し			会長^ かげて	、説明し、制度を活用してもにいく。	っつことにより、持糸	売的な維持管

様式2-2 地区の概要 桃山地区(山口県宇部市) 都市再生整備計画事業の成果概要 まちづくりの目標 目標を定量化する指標 従前値 目標値 評価値 目標 地区内の人口減少を抑制 単位: % H28 R3 3.5 -0.7 0 R3 女心で快適な生沽環境に関する満足 単位: % H29 R3 38 68 R3 ・中心市街地に近接し利便性が高く、自然環境に恵まれた、安心・安全・良好な住環境の形成 60 ・災害時の避難路の確保、緊急車輌が進入可能な道路拡幅整備による安心・安全に暮らせる生活環境の形 ・恵まれた自然環境を残しながら、快適に暮らせる生活環境の形成を図る □提案事業 (地域創造支援事業) 生活道路整備 ■基幹事業(道路) ■基幹事業(道路) 市道16号線整備 市道川号線整備 ■基幹事業 (道路) ■基幹事業 (道路) 市道17号線整備 市道4号線整備 ※整備後の市道17号線 ※整備後の市道11号線 口提案事業 (地域創造支援事業) 生活道路整備 口提案事業(地域創造支援事業 生活道路整備 □提案事業 (地域創造支援事業) 住居表示整備事業 〇関連事業 新川小学校 防犯灯設置事業 大阪会園大学 (参報公園前: ・東バス修(京都公園前: ※整備後の市道13号線 ●/【大体(共和)。 ※整備後の市道4号線 口提家事業(地域創造支援事業) 生活道路整備 **应部体育体** ■基幹事業(道路) : 都市冉生整備計画の区域 市道14号線整備 ---:部市機能誘導区域 ■基幹事業 (道路) ■■■■■■:居住誘導区域 市道13号線整備 ■基幹事業 口提案基業

1:〇関連事業

住居表示

※整備後の生活道路

: 原明施設

1----

0

まちの課題の変化

※整備後の生活道路

- ・市道や下水道の整備に伴い、空家や未利用地が宅地化されたことにより、居住誘導区域としての役割を果たしている。
- ・狭隘道路を市道として拡幅整備したことにより、緊急車両の通行が可能となり、防災面等に関する住民の不安軽減につながっている。

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)

- 施設の良好な状況を維持すべく適切な維持管理を行う。
- ・開発行為などを行う民間事業者に対し、適切な指導を行い、優良な住宅地の形成を促す。
- •市道整備後の状況を確認し、必要であれば安全施設の設置等を検討する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1)成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 一添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
 - 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2)実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3)効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- ──添付様式4-② 粉値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現更因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-3 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5)事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6)評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(7)有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1一① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更 あり なし	変更前	変更後	変更理由
A. まちづくりの目標	•			
B. 目標を定量化する指標	•			
C. 目標値	•			
D. その他()	•			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

			当初計画	最	k 終変更計画	当初計画からの	都市再生整備計画に記載した	事後評価	時の完成状況
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容	変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	完成	完成見込み
道路	市道4、11、13、14、16、17	618.5	1,445m	384.8	1,140m	事業費の減額	影響なし		•
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設									
高質空間形成 施設									
高次都市施設									
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
生宅市街地 総合整備事業									

^{※1:}事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

			当初計画	最	終変更計画	当初計画からの	都市再生整備計画に記載した	事後評価	時の完成状況
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容	変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

^{※1:}事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

			当初計画	最	長終変更計画	当初計画からの	都市再生整備計画に記載した	事後評価時	持の完成状況
事業	細項目	事業費	事業内容	事業費	事業内容	変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	完成	完成見込み
	生活道路整備	77.1	1,871m	44.6	1,427m	事業費の減額	影響なし		•
	住居表示	10.0	21ha	8.0	18ha	事業費の減額	影響なし		•
地域創造 支援事業									
	事業評価分析	8.5	-	0	_	事業の削除	影響なし		•
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									
	赤面 転担迫加がある後会け乗出を服勢のニ と								

^{※1:}事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

			事業費	事業	美期間						
事業	細項目	事業箇所名	当初計画 最終変更 計画	当初計画	最終変更計画	進捗状況及び所見	備考				
防犯等設置事	 業	桃山地区	- 0.4	_		令和元年度より整備し、地域 の夜間の安全を確保してい る。					

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

/旅门门门水上C2	指 標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、	(参考)※1 計画以前の (ア)	,	従前値 (イ)		目標値(ウ)	,		数値(エ))		目標達成度※2		達成見	l内の 込みの 無
		単位	対象、具体手法等)		基準 年度		基準 年度		目標 年度							あり	なし
										モニタリング				モニタリング			
指標1	 地区内の人口減少を抑 制	%	平成28年4月から令和3年10月 までの人口増減率を評価値とし	-3.1	H23	-0.7	H28	0.0	R3		確定	•					
	102		て、目標値と比較した。							事後評価	見込み		3.5	事後評価	0		
			地区内に土地を所有する者の							モニタリング				モニタリング			
	安心で快適な生活環境に関する満足度		中から抽出して「アンケート調査」を 実施し、現在のこの地区の生活 環境整備について、「満足」又	-	-	38	H29	60	R3		確定	•					
	スプ Vimix IX		は「まあ満足」と答えたものの比率を満足度として整理した。							事後評価	見込み		68	事後評価	0		
										モニタリング				モニタリング			
										事後評価				事後評価			

指標	目標達成度〇△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	良好な住環境を整えることにより、人口増減率が+3.5%となり、目標を達成している。	
指標2	アンケート結果から、満足度は68%となり目標は達成している。	

^{※1} 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・市道が整備されたことに伴い、隣接する未利用地が宅地化され、家屋の新築件数が増加している。

・降雨時に冠水していた道路では、排水施設を整備したことにより、住民の安心・安全な住環境に繋がっている。

^{※2} 目標達成度の記入方法

 ^{○ :}評価値が目標値を上回った場合
 △ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 × :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
_	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度·実施時期·実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施 i. 体制構築に向けた取組内容	時期・実施結果 ii. まちづくり組織名:組織の概要	今後の対応方針等
・地域住民共有の生活空間である市道において、市民、地元企業、各種団体及び市が協力して清掃、緑化活動等ボランティアを行うことにより、地域美化に対する市民意識の高揚を図り、市民と市が一体となった地域活動を推進する。(美化ピカロード宇部)・市道と同様に、地域住民及び市が協力(助成)して清掃、インフラ修繕等を行うことにより、持続的なコミュニティの形成に努める。	予定はなかったが実施した	生活道路に関しては、自治会長や地元住民に日常的な維持管理について説明をしている。また、将来的に修繕が必要となった際は、助成制度を活用して維持管理が可能であることを説明した。		市道等の美化活動ボランティアへの参加を 促すとともに、自治会単位での定期的な道 普請等による日常的な管理を継続する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
桃山地区まちづくり検討会	·道路整備課 副課長 ·建築指導課 課長 ·下水道整備課 課長	令和3年11月4日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

443.0 0 143.0	が「秋八丁 G 数に日保さ足以びに旧保にががの別未元処女囚の正在									
	指標の種別		指標1		指標2					
	指標名	地区	内の人口減少を抑制	安心で快適な生活環境に関する満足度						
種別	事業名·箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	
基幹事業	市道4、11、13、14、16、17		計画区域内の道路等 の整備により、交通の 利便性や快適な生活 環境が形成された結 果、これまで未利用 だった土地の宅地化や		緊急車輌が進入可能 な道路や側溝などの排 水施設、防犯灯の整備 のほか、住居表示を実 施することにより、安 心・安全に暮らせる生					
	地域創造支援事業 生活道路整備 地域創造支援事業 住居表示	O	老朽家屋の建て替え が促進され、居住者人 口の増加につながって いる。	0	で、安主に春らどる王 活環境が形成された結 果、満足度の向上につ ながっている。					
関連事業	防犯灯設置事業	_		0						

※指標改善への貢献度

- ②:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- O:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に 貢献しなかった。
- ー:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確 なので、評価できない。

	整備した施設の良好な状況を 維持すべく、適切な維持管理を 行う。			
--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
桃山地区まちづくり検討会	·道路整備課 副課長 ·建築指導課 課長 ·下水道整備課 課長	令和3年11月4日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
狭隘道路の解消	れ、緊急車両の通行が可能となり、防災面等に関する	建築基準法第42条第2項に該当する生活道路(2項道路)では、今後、各宅地の建築に合わせてセットバックする必要がある。	
	市道整備を行うことで、狭隘道路が解消されたことに加え、建築基準法上の道路としての利便性が向上し、居住誘導区域としての役割を担っている。	道路整備計画を見直した箇所での下水道整備について、水洗 化に向けた対策を検討する必要がある。	_

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり 方策を添付様式5-③A欄に記入します。 これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を 添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-3 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A 489	生活環境水準の向上を目指した道路施設等 の機能維持	施設の良好な状況を維持すべく、適切な維持管理を行う。	・施設管理者による維持管理 ・住民等による道路の清掃
A欄 効果を持続させるため に行う方策			
	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策		将来的には、住宅の建て替えなどによる敷地後退により、2項道路が拡幅される見込み。	
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策	下水道未整備箇所の水洗化	下水道事業計画を縮小した区域に該当するため、浄化槽設置補助金を 上乗せすることにより、合併浄化槽の設置を促進する。	净化槽設置補助金制度
めの改善泉・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等 において実施する改善策 を記入します。 なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-3)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他	』の意見
------------------------------	------

・整備したものの維持管理を誰が行うのか、地元管理を含めて分かりやすくしたほうがよい。

- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画 ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以 内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアッ プ計画を記入して下さい。

_												_			
	指 標		· 従前値		目標値	,		評価値	古	目標	1年以内の 達成見込みの			フォローアップ計画	
·			ᄣᆒᄪ	年度	口际吧	年度		ат іші іц	<u> </u>	達成度	有無		予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地区内の人口減 少を抑制	%	-0.7	H28	0	R3	確定 見込み	•	3.5	0	あり なし	→			
指標2	安心で快適な生活 環境に関する満足 度	%	38	H29	60	R3	確定 見込み	•	68	0	あり なし	→			
指標3							確定 見込み				あり なし	→			
指標4							確定 見込み				あり なし	→			
指標5							確定見込み				あり なし	→			
その他の数値指標1							確定 見込み					→			
その他の 数値指標2							確定 見込み					→			
その他の 数値指標3							確定 見込み					→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

	「大衣の点に プレーC、行業 9 へご 争 項を記入しま 9 。								
項	<u> </u>	要因分析	次期計画や他地区への活かし方						
数値目標	うまくいった点	・数値目標を算出するデータの一つは、自治体が四半期ごとに更新するものだったため、その都度、事業の効果を確認することができた。	・指標を設定する際は、経過を確認しやすい データや簡単に算出しやすいものを用いる事が						
・成果の達成	うまく いかなかった点		望ましい。						
数値目標と 目標・事業との	うまくいった点								
整合性等	うまく いかなかった点								
住民参加	うまくいった点								
•情報公開	うまく いかなかった点								
PDCAによる事業	うまくいった点								
・評価の進め方	うまく いかなかった点								
その他	うまくいった点	・必要とされるインフラを整備することによって、居住誘導が促進された。	・居住誘導区域内で事業を行う場合、不足して						
C 07 IE	うまく いかなかった点		いるインフラの整備が重要である。						

添付様式6一参考記述	今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間 · 公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和3年11月19日から 令和3年12月16日まで	公表期間中(郵送の場合は、 公表期間最終日消印有効)		
広報掲載・回覧・個別配布	関係ふれあいセンターにて閲 覧	令和3年11月19日から 令和3年12月16日まで	公表期間中(郵送の場合は、 公表期間最終日消印有効)	郵送、メール、	都市計画課
説明会・ワークショップ				FAX、持参	10미리 四林
その他	都市計画課での閲覧	令和3年11月19日から 令和3年12月16日まで	公表期間中(郵送の場合は、 公表期間最終日消印有効)		

	意見の提出なし
住民の意見	

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

	委員構成	実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験の ある委員	榊原 弘之(山口大学教授) 村上 ひとみ(山口大学非常勤講師)			桃山地区都市再生整備	
	日本技術士会 山口県支部長 山口県建築士協会 宇部支部 副支部長	令和4年2月3日	都市計画課	計画評価委員会設置要綱	独自に設置

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手 続き等にか かる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・全ての数値目標が達成されていることが確認された。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・地区内人口が増えたことに対して、インフラ整備の効果が大きいとの意見があり、効果発現要因の整理が適切に行われていることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当 性	分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に 進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまち づくりについ て審議	今後のまちづくり方策の作成	・立地がよい場所であれば、生活道路を含むインフラ整備を行うことにより、人口の増加が見込めることが示されたとの意見があった。 ・コミュニティタクシーが通っていることも、うまく整備とかみ合ったのではないかとの意見があった。 ・居住誘導区域内の他の場所でも、きめ細かい生活道路の整備という住民ニーズは高いものと想像できるので、市がどの辺りにまちづくりの力点を置いていくかが大事ではないかとの意見があった。 ・宅地開発が進んだ際に、雨水排水が下流へ及ぼす影響は考慮されているのかとの意見があった。 →下流側は既に整備済みであるが、合流管の改善や雨水幹線整備について、今後、上下水道局が検討していく予定であると回答。
	フォローアップ	・既に目標を達成しており、現在施工中の工事等が完成しても目標値を下回ることはないと判断しているため、フォローアップは実施しないことを確認した。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当 か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし。